

株式市場予想レポート（週刊）
Techni Hedge Stock: 27 May, 2013 (Mon.)
Tanaka Currency Risk Management, vof.

全世界の株式が大幅に同時下落。暴落と呼んでよい規模だった。
 ドル円も過去1年で最悪の前週比下落率を記録しつつ下落。一方クロス円は株式ほどではなかった。

今週の株価指数予測ハイライト

日経平均株価指数225 長期予想 : 長期強気中。	2
日経平均株価指数225 中期予想 : 中期弱気転換。	3
日経平均株価指数225 短期予想 : 短期売りシグナル再々点灯。	3
日本長期国債10年 : 長期弱気中。中期弱気中。	4
ドル円・長期予想 : 長期強気中。	5
ドル円・中期予想 : 中期強気中。	6
NYダウ工業株価指数 : 長期長期強気中。中期強気中。	6
独株価指数 DAX : 長期強気中。中期強気中。	8
英国株価指数 FTSE100 : 長期強気中。中期強気中。	9
香港ハンセン株価指数 : 長期弱気中。中期弱気転換。	10
NY GOLD : 長期弱気中。中期弱気中。	11
NY WTI原油 : 長期弱気転換。中期強気中。	12

全世界株価指数等概観

先週までの市況と中期シグナル・セレクション :

ハンセン以外の全株式市場が4週間続騰して最高値更新。本邦国債は143円を大幅に割り込んで再急落。先週は、既に強気中の株式市場に新規シグナル点灯は無かった。

日経 225 週足	売りシグナル点灯、中期弱気転換 (5月24日週)
日本長期国債 10年週足	売りストップ到達、中期弱気追認 (5月24日週)
ハンセン週足	売りストップに到達し中期弱気転換(5月24日週)

長期的概観 :

昨年9月に長期システムが株式長期強気に転換開始。
 昨年11月に急騰局面が始まり12月まで特に日経平均は円安と平行して変動率急騰で世界をリード。
 1月は全金融市場が大乱高下。ボラティリティーが急増した。
 2月は調整に向かい、欧州とハンセンが下落して二極化。
 3月はNYダウが史上最高値を更新。全世界を牽引。一方ハンセンに不穏な長期売りシグナル点灯。
 4月は欧州とハンセンが大幅に下落。しかし月末に向けて反騰傾向を強め、下落幅回復に向かった。一方、NYと東京は下げ足を止めず快調。

5月は先週全世界の株式同時暴落に襲われた。FTSE100には長期売りシグナルが先駆的に点灯。
 <注目。

長期シグナル・セレクション :

日本長期国債10年 5月足 売りストップ到達、長期弱気追認中。
 FTSE100 5月足 売りシグナル点灯、買いストップ到達、長期ニュートラル転換中(月末確定)。

NY WTI原油	4月足	売りシグナル点灯、売りストップ到達、長期弱気転換。
ハンセン	3月足	売りシグナル点灯、売りストップ到達、長期弱気転換。
NYダウ	1月足	買いブレイクアウト発生、長期強気転換。
FTSE100	1月足	買いブレイクアウト発生、長期強気転換。
GOLD	12月足	売りシグナル及び売りストップ到達、長期弱気転換。
TOPIX	11月足	買いストップ776に到達、長期強気転換。
ドル円	10月足	買いストップ79.40到達、長期強気転換。 < 注目
日経225	9月足	買いストップ9288円到達、長期強気転換。 < 注目
ハンセン	9月足	買いストップ20341到達、長期強気転換。 < 注目
独DAX	9月足	買いシグナル7216にて点灯、長期強気転換。 < 注目

(お断り：ブレイクアウトはストップに対する抜けを告知しており、予想レンジに対するものでは有りません。本レポートでは逆張りの売買シグナルと順張りの売買ストップの両方で、価格変動の方向性認識を管理しておりますが、チャートには逆張りの売買シグナルのみが表示されています。日経平均225、ドル円、日本国債以外は予想レンジを表示してありません。又、全ての株価指数はキャッシュ株価指数であり、従って表示されたストップをそのまま先物やCFD取引に適用する事は出来ません。)

日経平均株価指数 225 : 14612.45 (15138.12)

日経平均株価指数225 長期予想 : 長期強気中。

(下図は日経平均株価指数長期月足売買シグナル)



日経 225 長期月足 4月はシグナル点灯なし。2012年9月買いストップ 9288円より長期強気中。4月 13377円買いブレイクアウト発生、長期強気追認。5月足は 15897円買いストップ到達、長期強気追認中(月末確定)。

本レポートは『今年の最高目標を控えめに見積もっても 16000円』としてきた。先週の日経平均は木曜日に 15942円高値を付けた後大暴落。ここまでの重要節目だった 14000円まで2日間で暴落した。これは記録的な上昇幅だった2週間分をクライマックス的に全て失った事になる。

理由は色々取りざたされているが、自律的な反落だと言うべきだろう。調整無しにここまで進んできた事がアダになり、広範に予想されていた重要節目で相場が自律反転したと言うことである。過熱化の兆候は既に前回レポートでも浮上していた。国債先物の暴落も警戒心を煽った。

ロンドン FTSE100 月足に長期売りシグナルが点灯したり、ポンド円、豪ドル円の月足に長期売りシグナルが点灯するなど、相関の高い周辺市場での長期反転の兆しが全株式市場に波及したとも言える。

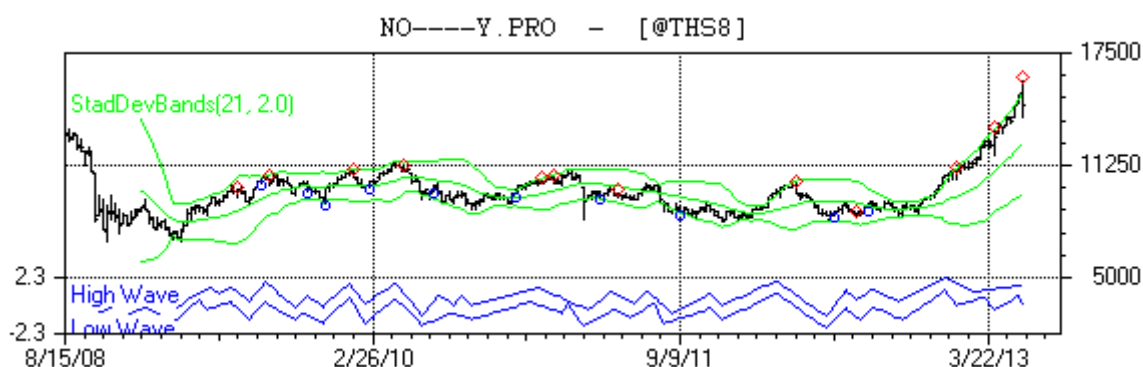
長期強気認識は有効。しかしこれを切っ掛けに天井圏の形成からさらに長期的な調整局面に入ることは避けられないだろう。問題はどの程度続くかである。現時点での観測では特に異常な現象は観測されておらず、典型的な大相場の調整局面が来たとの認識である。

今年の最初の金融市場の一般的な天井を5月と予想してきたが、それが始まった模様。しかし長期調整後、その調整の規模や性格にも依存するが、今年の後半に最高値を更新して二番天井をつけに行く可能性はまだ充分に有ると見込む。その際は恐らく9月以降に二番天井をつける見通しである。今年から来年に掛けてであれば 18000円到達も不可能とは言えないだろう。

日経 225 : 5月の売りストップは 11824円。(買いストップは 15897円)

日経平均株価指数225 中期予想：中期弱気転換。

(下図は日経平均株価指数 225 中期週足売買シグナル)



日経平均 225 中期週足はシグナル点灯なし。4月26日週 13581 円買いブレイクアウトより中期強気中。先週 5月24日週 14612 円にて売りシグナル点灯、中期弱気転換。

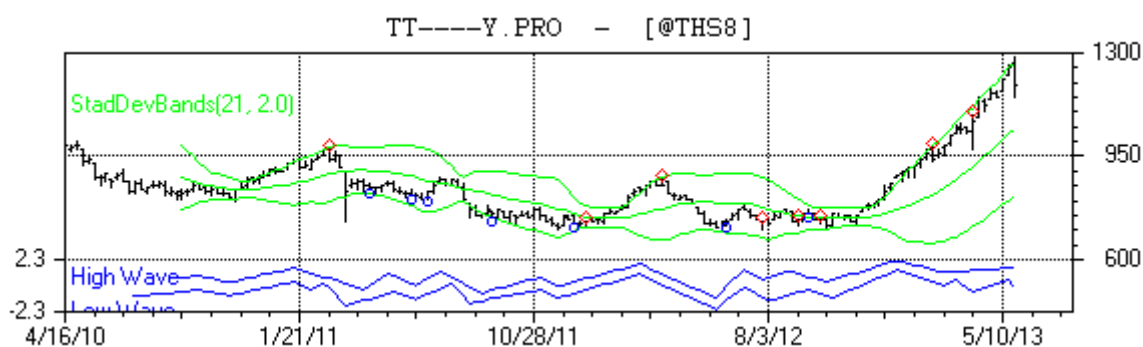
2週間前から『**テクニヘッジシステムが計測する天井予想圏に到達し、最悪のシナリオではトレンドを中断して調整に向かう売りシグナルが点灯可能な状態だった**』。

実際にはその中期売りシグナルは22日に点灯を開始、16000円近辺でのテクニカル利食いはかなり広範に見込まれていた模様で雪崩気味に大暴落に発展して言った。国債も大乱高下に陥った。

今週は短期日足に初日から買いシグナルが点灯する可能性が高く、押し目の待機組みも多数存在すると思われることから、上げ始めると逆に買い殺到というような激しい乱高下相場になる可能性が高いだろう。水準では13000~13500の領域で押し目買いが優勢になり反転すると見込む。

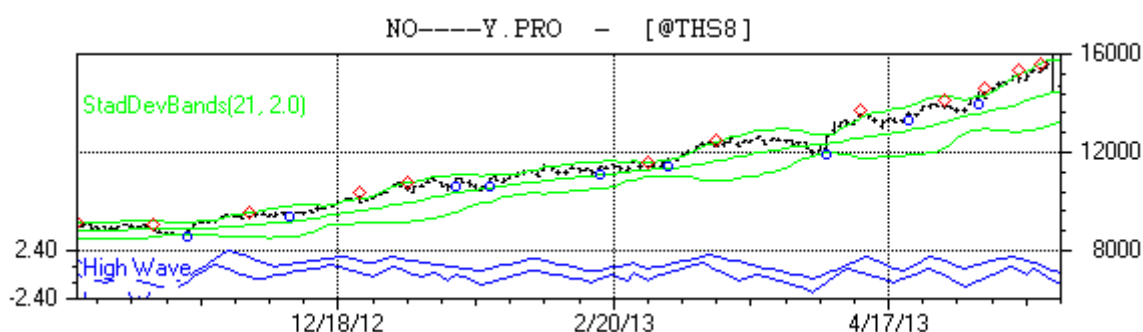
日経 225： 今週の買いストップは 15569 円。(売りストップ 13714 円)

(下図は TOPIX 株価指数中期週足売買シグナル)



日経平均株価指数225 短期予想：短期売りシグナル再々点灯。

(下図は日経平均株価指数 225 短期日足周期チャート)



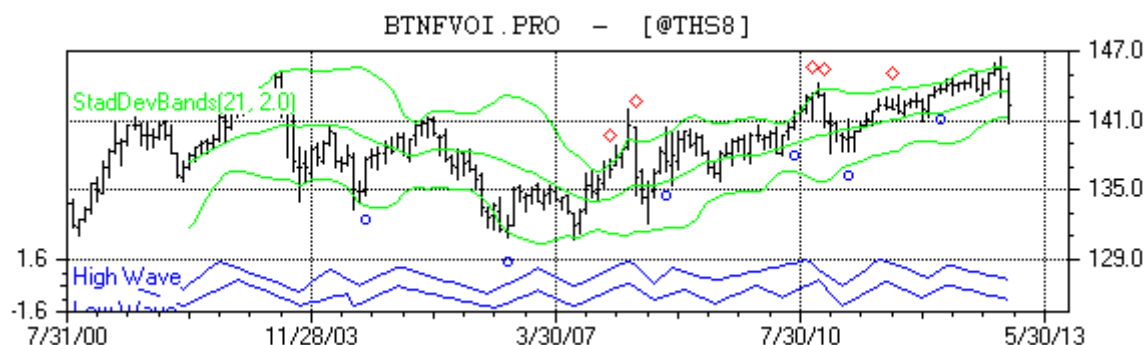
5月16日売りシグナル点灯。5月21日売りシグナル点灯。

先週は木曜日と金曜日に二日連続の大暴落。金曜日の引け値は当日レンジの中央付近だった。短期的には既に周期的な下落目標を達成している可能性が高く、週初から買いシグナルが点灯するシナリオも考えられる。買い上げが始まると、恐らく下落したのと同程度の急激な買い局面となるのではないかと。

日本長期国債 10年 (JGB): 142.30 (142.69)

日本長期国債10年：長期弱気中。中期弱気中。

(下図は JGB 先物長期月足売買シグナル)



長期月足4月はシグナル点灯なし。12月143.84売りブレイクアウトより長期弱気中。4月足は143.76売りストップ到達、長期弱気追認。5月足は142.55売りストップ到達、長期弱気追認中(月末確定)。

中期週足5月10日週144.17売りブレイクアウトより中期弱気中。先週5月24日週140.76売りストップ到達、中期弱気追認。

4月足は4月5日に大混乱が発生し市場関係者の間で憂慮の声が上がった。しかし予想通り早々と事態は収拾。その後は予想通り、『暫く安定』していた。

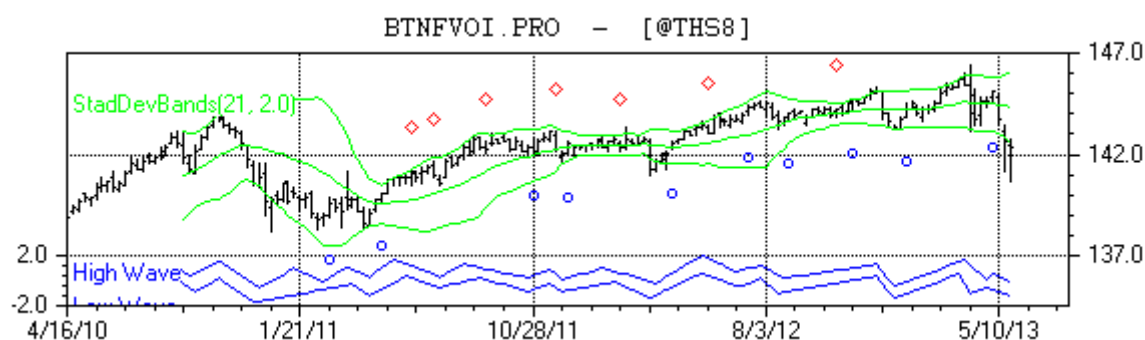
5月足は4月急落幅を大きく上回る、大幅の急落。それは直近の2週間で発生した。先週は木曜日から株の大暴落が始まり、国債は当然急騰。大乱高下の週となった。

問題は下落幅の大きさだけでなくボラティリティーの異常な増加。日足のレンジ幅は平均計測で昨年度の4倍程度、週足ベースでも2倍程度に急騰している。長期金利がここまで不安定になると、ビジネスの長期計画そのものが難しくなり大きな障害となるはずである。

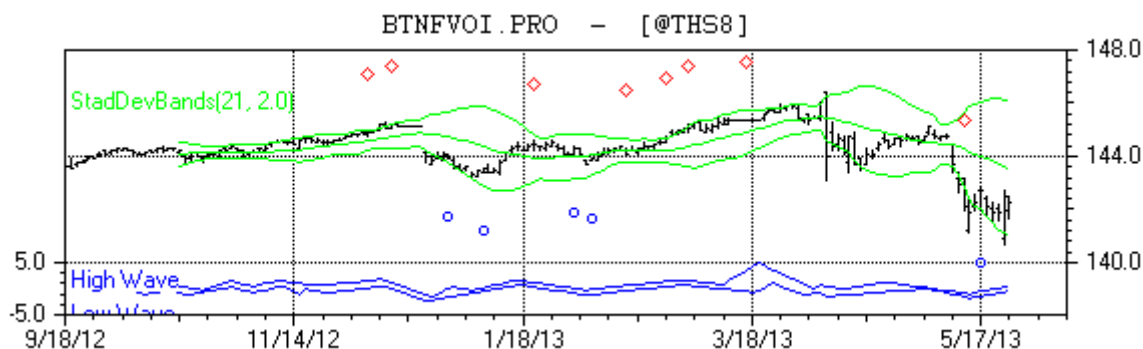
5月の月間買いストップは146.51円。(売りストップは142.55)

今週の買いストップは144.19。(売りストップは140.40)

(下図は JGB 先物中期週足売買シグナル)



(下図は JGB 先物短期日足売買シグナル)



ドル円: 101.24 (103.24) 先週末 NY 為替市場終値

ドル円・長期予想: 長期強気中。

(下図ドル円長期月足売買シグナル:)



長期 4 月足はシグナル点灯なし。97.79 買いストップ到達、長期強気追認。

10 月 79.40 買いブレイクアウトより長期強気中。

>>

今月 5 月足、102.55 買いストップに到達、長期強気追認中 (月末確定)

5 月足は急騰して始まり、9 日には 100 円越えに成功。

一時ザラバ高値の前月末比上昇率は今回の強気大相場が始まって以来の最大値 (6.47%) を付けるほどの勢があった。

先週の月足は少し下落、今週月足が更に大幅に下げたとしても、ここまでの今月の上昇幅が大きかった事から、月足が前月比マイナスで引けるようなことは無いだろう。

この市況では 5 月足に長期売りシグナルが点灯する可能性は殆ど無いといえる。

最も早いシナリオでも 6 月だろう。ただしこれは 6 月に足元の最高値を記録することを予想している訳ではなく、5 月に最高値をつけ、6 月には単にシグナルだけが点灯する可能性もありうる。

本年度ピークの時期であるが 5 月か 9 月かのどちらかになると年初から予想中。

今年中に 2 回際立った高値を形成するかもしれない。

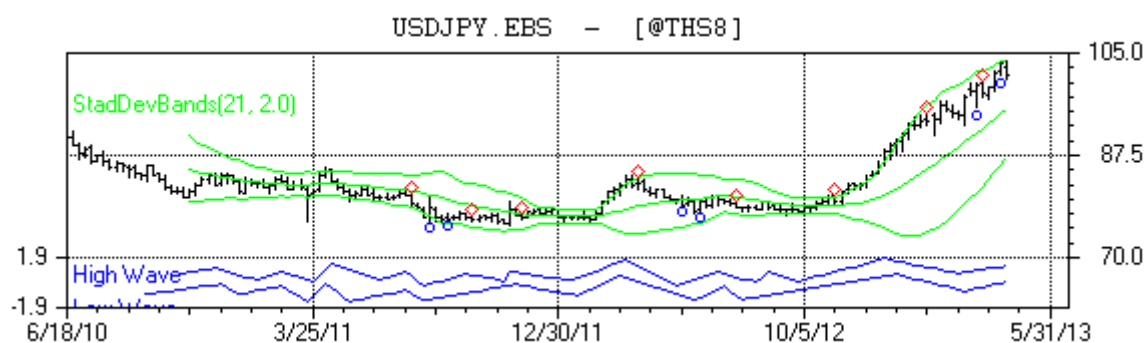
(2013 年 1 月発表、3 月末更新) 超長期予想 (今後 5 年間):

- 1) 2013 年の長期ピークは 100 円近辺 (+/- 5 円誤差)。(< 5 月 9 日に 100 円目標を達成)
そこから一度 10 円程度の幅で大調整。
- 2) その調整底入れ水準からは長期強気再開して直近天井まで急速に上昇。
- 3) その後減速して上昇し 106 ~ 110 円に到達。到達時期は 2015 年から 2016 年頃。
- 4) 106 円 ~ 110 円前後で天井を付けその後 3 ~ 5 年間本格長期弱気。
次の長期大底は 2018 ~ 2021 の間。

5 月の売りストップ 90.60。(買いストップ 102.55)

ドル円・中期予想：中期強気中。

(下図ドル円中期週足売買シグナル：)



先週は買いシグナル点灯、中期強気追認。ブレイクアウトなし。

5月10日週買いブレイクアウト101.08より中期強気中。

先週のドル円週足は-1.94%下落した。

2010年以降の急落局面は最大下落率に到達した例が10ほどあるが、全て前週比2%前後が下落率の上限だった。

従って先週の急落はここ数年の範疇から言っても正常の範囲内にあり、過去の事例の繰り返しとなり易いと見て良いだろう。

ドル円週足は今回の大相場における4度目の大調整に入ったとの認識を強めつつある。

これまでの3回の大調整は全て約4円幅の値幅調整だったので、今回の調整が本格化すれば、99.74円近辺まで行くと考えて計画を立てると良いだろう。

週足のトレンドラインも来週頃にはその近辺を走ることになり、このシナリオは実現しやすい。

先週は高値が今年の最高値であり、中期強気認識で終了したが、今週下落すれば中期売りシグナルが点灯する可能性が高い。

なおここまで中期弱気に転換するたびに、それまでのロングを長期に振り当てて持続する運用方式を示唆してきたが、今回はやらない方がよいとの判断である。

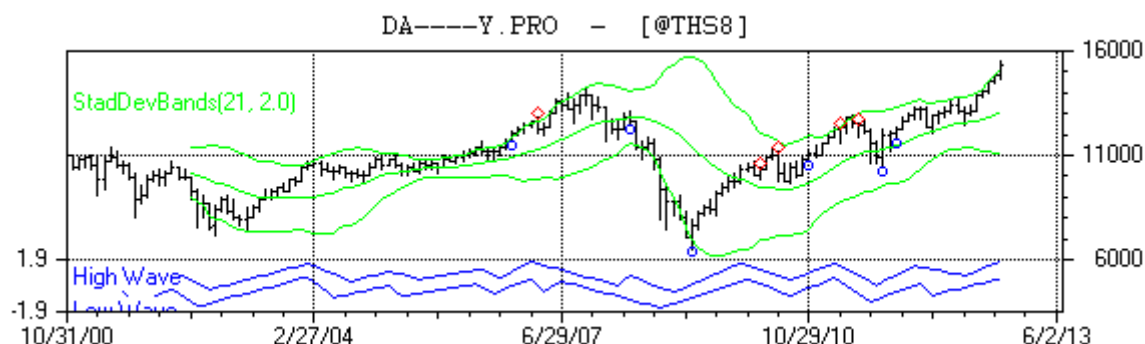
長期月足も大天井を付ける可能性があるのがその理由である。

今週の売りストップ99.32。(売りストップ103.86)

NYダウ工業株価指数：15303.09 (15354.40)

NYダウ工業株価指数：長期長期強気中。中期強気中。

(下図はNYダウ長期月足売買シグナル)



NYダウ長期月足4月はシグナル点灯なし。ブレイクアウトなし。1月13631買いブレイクアウト

より長期強気中。

中期週足は4月12日週 14739 買いブレイクアウトより中期強気中。

先週のNYダウは他市場の暴落にもかかわらずちょっとした綾押し程度で済んだのが特徴である。月足は突出しておりクライマックスの可能性はあるものの、まだその兆候は出ていない。心配なのは他の市場が暴落したことに因る連想懸念である。

中期週足はやや安値寄りの十字足で終了。一時的に上げ止まったとの印象である。日足もそう水曜日の急騰から急落への変貌がキーリバーサルになっているが、木曜日と金曜日は殆ど動かず。相対的には先進国中最高の地位を堅持している。しかし単独で高水準を維持できるのか、他市場での損失の穴埋めに利食いが入らないのか、懸念は十二分にある。

5月の月間売りストップは13982。(買いストップは15696)

今週の売りストップは14941。(買いストップは15588)

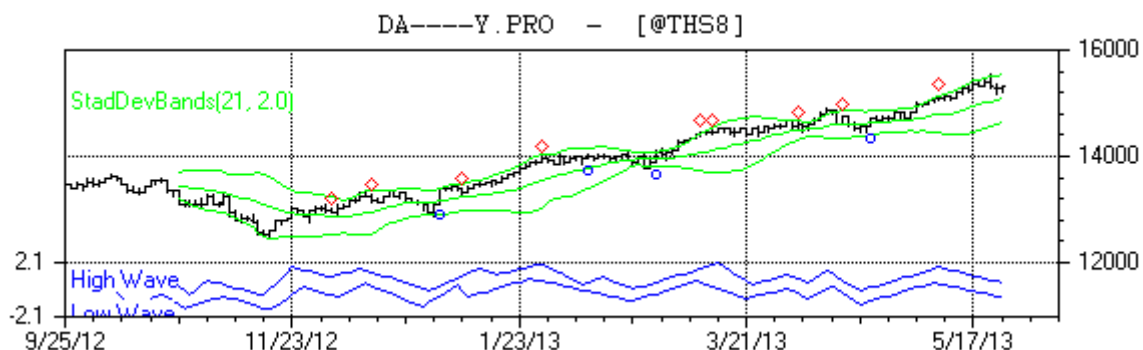
(下図はNYダウ中期週足売買シグナル)



(下図はS&P500中期週足売買シグナル)



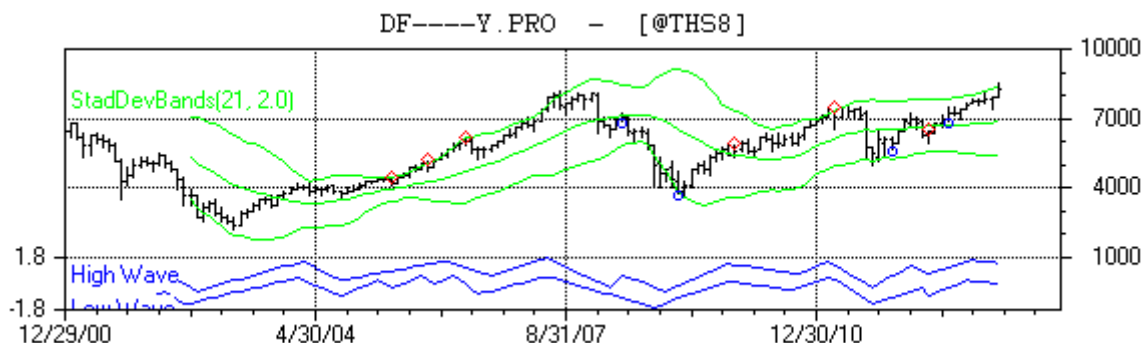
(下図はNYダウ短期日足売買シグナル)



独 DAX 株価指数 : 8305.32 (8398.00)

独株価指数 DAX : 長期強気中。中期強気中。

(下图は独 DAX 長期月足売買シグナル)



長期月足4月はシグナル点灯なし。9月買いシグナル 7216 より長期強気中。今月5月足は 8434 買いストップに到達、長期強気追認中 (月末確定)
 中期週足は4月26日週 7789 買いブレイクアウトより中期強気中。

NY ダウに次いで好調の DAX は、先週もダウと同じ様に持ち応えて、高水準での綾押しに留まった。しかし急激に突出した直後のキーリバーサルを先週形成しており、反落懸念はいやおうにも高まった。日経平均の大暴落が無くとも、DAX は中期周期が天井圏に到達直前であり、数週間以内に、通常の中期的調整局面に転じる見通しである。

5月の月間売りストップは7393。(買いストップは8434)
 今週の売りストップは8040。(買いストップは8571)

(下图は独 DAX 中期週足売買シグナル)



(下图は独 DAX 短期日足売買シグナル)



英国 FTSE100 株価指数： 6654.33 (6723.06)

英国株価指数 FTSE100：長期強気中。中期強気中。

(下図は英 FTSE100 長期月足売買シグナル)



長期月足 4月はシグナル点灯なし。ブレイクアウトなし。1月 6003 買いブレイクアウトより長期強気中。5月足に売りシグナルが点灯、6657 買いストップ到達、長期ニュートラル転換中(月末確定)。中期週足は4月26日週 6426.41 買いシグナルより中期強気中。

FTSE100 長期 5月足には寄り付きから長期売りシグナルが点灯中である。寄り付き後一時急騰して突出パターンとなったが、先週は急反落して、前週比下落して終了した。先進国株式で長期売りシグナルが(一時的にせよ)点灯するのはロンドンが最初であり先週からその原因の解明に努めていた。結論としてはロンドン金融各市場が偶然非常に高いボラティリティーで同時に不安定に迷走した事が原因であり、英国経済が基本的にどうなったと言うよりは、その見通しが最近非常に不安定に急変したのが原因で有ると考えられる。これが各市場で偶発的に多数の長期シグナル点灯に繋がったとの結論である。

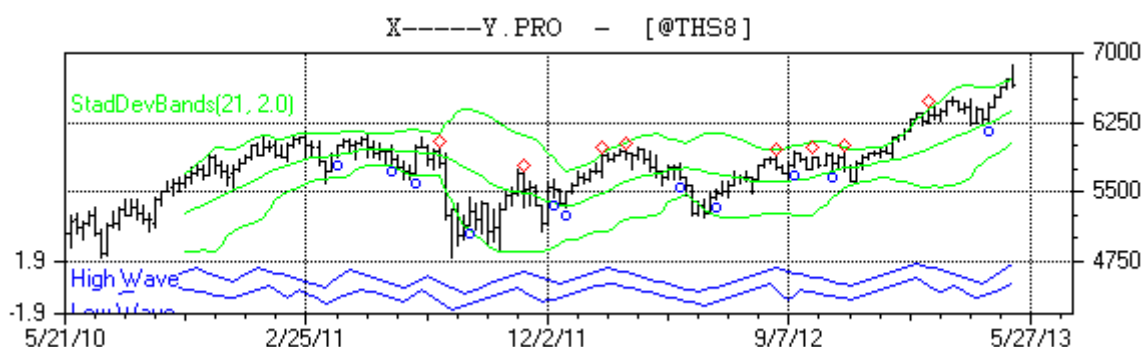
株式市場に絞って言えば、迷走していた株式市場が5月に入って急に真っ直ぐな急騰相場に変動したのが、逆に裏目に出たのだと思われる。

為替市場でもユーロポンド5月足に長期売りシグナルが点灯中。4月足にはポンド円長期売りシグナル点灯。ポンドドルに長期買いシグナルが点灯した。これほど多数の長期シグナルが点灯したのはポンドだけである。

5月の月間売りストップは6203。(買いストップは6657)

今週の売りストップは6421。(買いストップは6887)

(下図は英 FTSE100 中期週足売買シグナル)



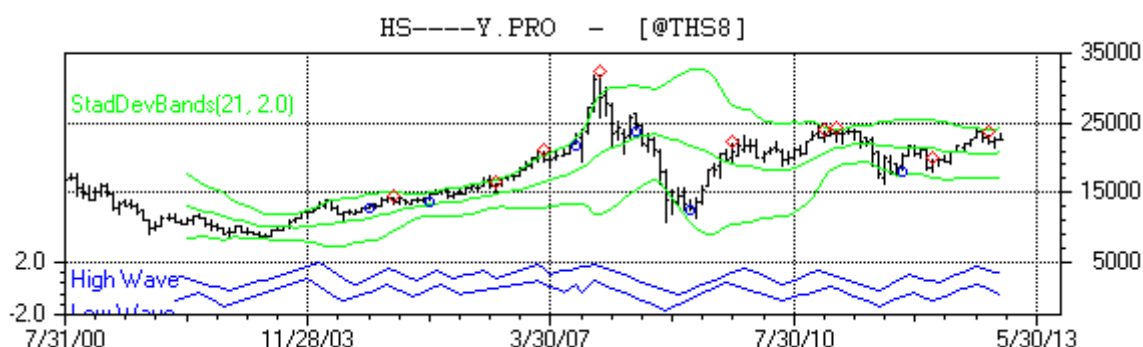
(下図は英 FTSE100 短期日足売買シグナル)



香港ハンセン株価指数 (HANG SENG) : 22618.66 (23082.67)

香港ハンセン株価指数：長期弱気中。中期弱気転換。

(下図は HANG SENG 長期月足売買シグナル)



長期月足4月はシグナル点灯なし。3月売りシグナルおよび22049売りストップより長期弱気中。4月足は22049売りストップ到達、長期弱気追認。中期週足は4月26日週買いシグナル点灯および22634買いストップより中期強気中だったが、先週5月24日週22523売りストップに到達し中期弱気転換。

最近猛烈な勢いで回復軌道に乗っていたハンセンも、先週は日経平均の暴落に巻き込まれて急落。今年最高値の更新への道は一旦閉ざされた。ワーストシナリオの目標値23700にも届かず。

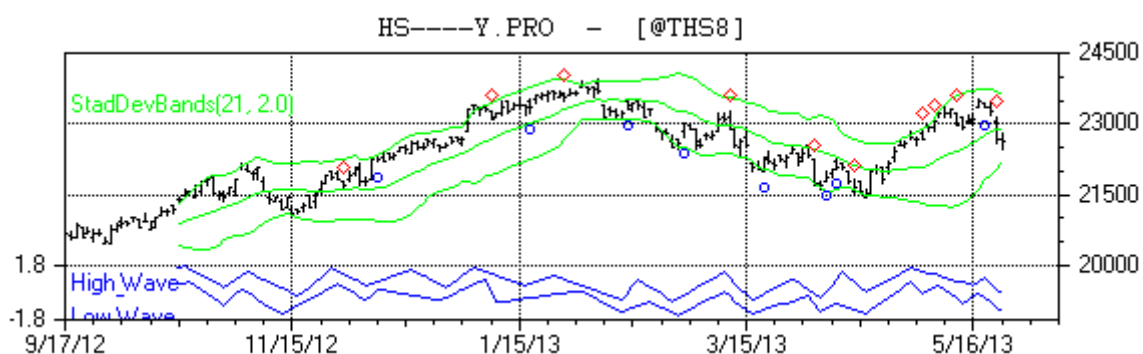
長期弱気の認識は未だ有効。強気転換の見通しは遠ざかり、この調子ではよくても長期横這いになりそうである。

5月の月間買いストップは24117。(売りストップは21357)
今週の買いストップは23691。(売りストップは21769)

(下図は HANG SENG 中期週足売買シグナル)



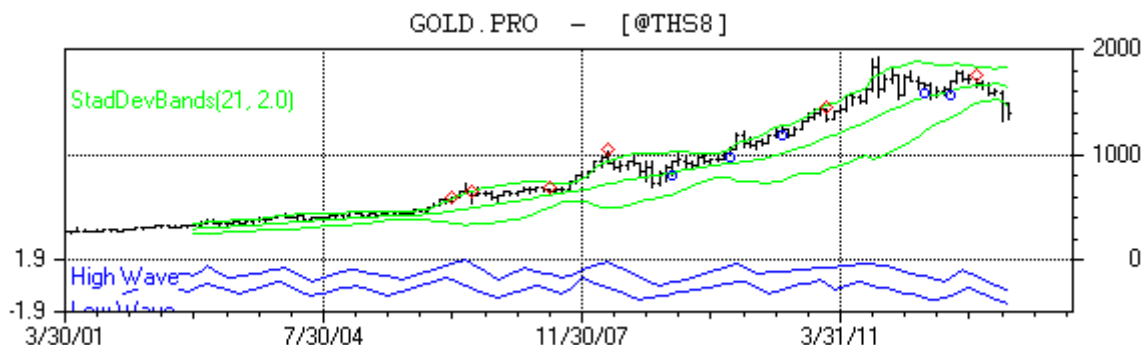
(下図は HANG SENG 短期日足売買シグナル)



NY GOLD : 1386.33 (1359.62)

NY GOLD : 長期弱気中。中期弱気中。

(下図は NY GOLD 長期月足売買シグナル)



長期月足 4月はシグナル点灯なし。2012年 12月 1675.21 売りシグナル及び売りストップ到達より長期弱気中。

中期週足は 5月 17日週 1386 売りブレークアウトより中期弱気中。

ゴールドは月足が孕み足で終了しようとしており、その場合はやや下げ止まり感が強まる。今のところ、日足の売買シグナルのシナリオで正確に進行中(下図日足参照)。

先週は月曜日に買いシグナルが点灯。この日が足元の最安値底入れとなり、下げ止まった。とはいえ V 字型の反発にもならず、揉み合いで横這い中。この短期強気周期波動も後 1 週間ほどの上昇余力が少なく、次回の週報には短期売りシグナル点灯となる見通しである。

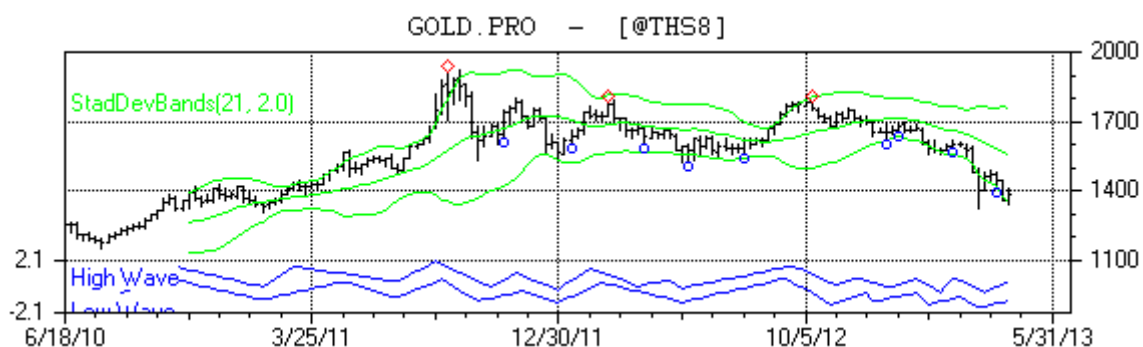
一方中期シグナル点灯の見通しは現在では全く無く、中期取引アクションは取りにくい。中期弱気の認識であるが、再開したばかりでありまだ不明瞭な点も多い。

先週ゴールドが下げ止まったのはドル上昇と株式上昇の流れが先週止まったからだと考えられる。ドルと株式から連想するしかないだろうが、長期的には点灯数ヶ月以内に迫っていると考えられる長期買いシグナルを待機するのが最良だろう。

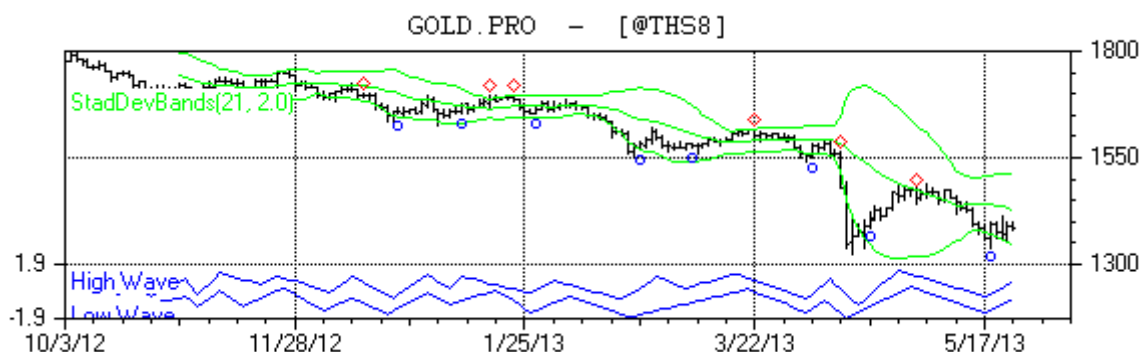
5月の月間買いストップは 1639。(売りストップは 1313)

今週の買いストップは 1493。(売りストップは 1279)

(下図は NY GOLD 中期週足売買シグナル)



(下図は NY GOLD 短期日足売買シグナル)



NY WTI 原油 (先物): 94.15 (96.02)

NY WTI原油: 長期弱気転換。中期強気中。

(下図はNY WTI 原油長期月足売買シグナル)



長期月足4月は売りシグナル点灯、87.75 売りストップ到達。8月買いストップ 97.23 より長期強気中だったが、先月4月売りシグナルおよび 87.75 売りストップ到達にて長期弱気転換した。中期週足は4月26日週 93.80 買いストップより中期強気中。

WTI 原油は長期中期短期全ての観測が実質横這い乱高下中との認識である。

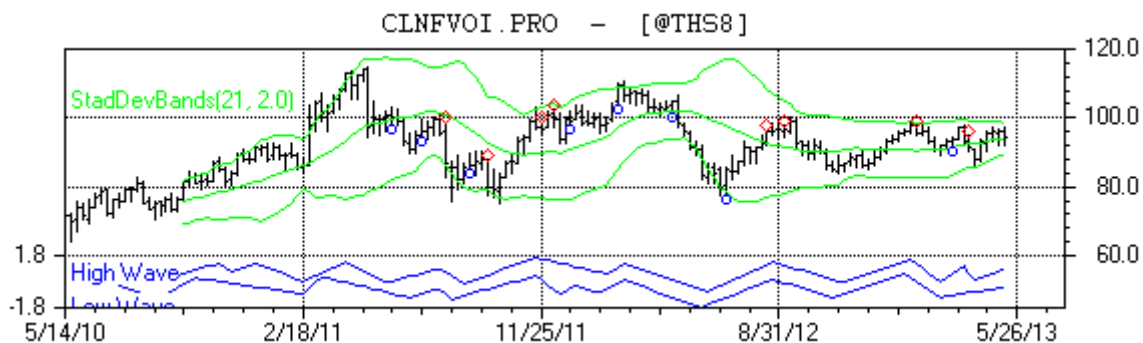
ブレークアウトのヒントも少なく、日足の売りシグナルが小規模な下方ブレークの可能性を僅かに示唆する程度。

WTI 原油は4月足に長期売りシグナルが点灯し、長期弱気転換して引けた。長期的下落余地は充分に残されており、この先3ヶ月程度は弱気優勢ないしは横這いだろう。上昇トレンド発生之余地はあまり無い。100ドルを越えない限り、この認識を維持し続けると良い。

5月の月間買いストップは 101.71。(売りストップは 85.21)

今週の売りストップは 89.48。(買いストップは 98.81)

(下図はNY WTI 原油中期週足売買シグナル)



(下図はNY WTI 原油短期日足売買シグナル)



テクニヘッジ・レポートの読み方（簡略版）

前書き：

本簡略版レポート解説マニュアルはテクニヘッジ・レポート週報を対象に書いてあります。内容は為替市場、内外株式市場、内外国債市場及び内外商品市場にも同様に適用されます。他の市場では該当する金融商品を読み替えてご理解ください。尚、本マニュアルは代理店 HP で無料ダウンロード出来る完全版マニュアル（開示文書）の簡略版です。

売買シグナル：

チャートの上部に表記されたダイヤモンド印はそのバーで点灯した天井「売りシグナル」です。チャートの下部に表記された丸印はそのバーで点灯した底入れ「買いシグナル」です。これは田中 CRM が 1996 年頃に開発したコンピュータ・ヘッジ・システムの売買シグナルで、本文中にシグナル点灯月日と価格水準を明示してあります。シグナルは過去 15 年間同じシステムから点灯しており後講釈で付けた物ではありません。リアルタイム配信したものです。

「**売りシグナル**」にて周期的天井を認識。

「**買いシグナル**」にて底を認識するとお考え下さい。

これは逆張りエントリーの試みです。日足、週足、月足それぞれに独立した「**売買シグナル**」が提供されます。「**売買シグナル**」とは「**周期的転換点を予測するシグナル**」を意味しています。

「**売りシグナル**」では天井にて強気が弱気に転換、「**買いシグナル**」では底にて弱気が強気に転換すると予想します。

売買ストップ：

天井と底を予想する転換点シグナルが当たらない事はありますが、それを早期に認識し、自分が間違っていることを自動的に識別するには、正確で有効な損切りストップ（逆指値）を設定する必要があります。損切りをして損失を予め限定し、さらに逆張りを停止してリバーサル（どてん）にて順張り新取引方向を定める自動的な仕組みが「**売買ストップ**」です。

ブレイクアウト：

「**売買ストップ**」は指定された価格からの「**ブレイクアウト**」発生により執行されます。つまり順張りにて相場の方向を自動的に認定します。価格がストップ水準を飛び越えることを「**ブレイクアウト**」発生と呼び、これは順張りのトレンド・フォロー手法です。「**売買シグナル**」が、周期的逆張りであるのとは逆のアプローチです。

本レポートでは引け値がストップ値を飛び越えて引けた場合のみ「**ブレイクアウト**」と呼びます。ストップ値に到達はしたが引け値はストップ値以前に押し戻されて引けた場合は、単に「**ストップに到達**」と表現します。

チャートと時間枠の読み方：

短期日足分析：デイリーベースのシステムが認識した市場方向性と市況を記載してあります。週報の読者には単に参考情報でありストップや予想レンジは記載されません。

中期週足分析：数週間から数ヶ月の中期市況認識に適しています。週初に注文を出すことの出来る方に適しています。なお日足取引者は、中期分析を参照することにより、日足の動きを支配している中期傾向を知ることが出来ます。シグナルの精度は日足よりも高いことが多いといえます。

長期月足分析：

半年から 1 年の長期時間枠で市況を判定する事を目的とします。月初に注文を出すことが出来る長期取引者に適しています。しばしば長期天井（または長期底）のシグナルが最高値（または最安値）付近で正確に点灯します。

トレンドの概念：

（周期的に点灯した）「**売りシグナル**」が、その直後に「**買いストップ**」をブレイクして方向認識が強気に再転換すると、しばしばそこから強気トレンドが発生します。

（周期的に点灯した）「**買いシグナル**」が、その直後に「**売りストップ**」をブレイクして方向認識が弱気に再転換すると、しばしばそこから弱気トレンドが発生します。

トレンドによる最大収益は、その直前に比較的大きな損失、もしくは小額の連続的損失を被った直後に実現する事が多いと言う経験則があります。

トレンド・フォロー：

ストップを連続的にエントリーとして使い、常にポジションをひっくり返しながらトレンドに追従していく手法をトレンド・フォローと呼びます。この手法では年に数度の最大級収益は大きいのですが、それに比例してドローダウンも大きくなることをご承知ください。

利食い：

本レポートでは利食い水準をシステム情報としてシステムティックに必ず記載しているわけではありません。本文では随時高値目標値、安値目標値として言及しております。

システム取引の限界：

レポートに提示されたシグナルとストップだけで、通貨取引の全てが解決するわけではないことを理解する必要があります。本レポートが意図するのは、読者の皆様に市況の核心に迫る最低限必要なシステム情報を出来るだけ正確に提供する事であり、取引上の問題に係る個々のアドバイスは一切行っていません。

外国為替予想・分析テクニヘッジ・レポートは、投資判断の参考となるシステム情報の提供を目的としたものです。売買の決定は読者ご自身の判断でなさるものであります。また、テクニヘッジ・レポートのいかなる部分も一切の権利は TANAKA CRM 社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で引用、複製または転送などを行うことを法律にて禁じられています。